

社会福祉法人 清水あすなろ福祉会

風の子保育園・あすなろの家・ともの家

法人だより

福祉情報を発信します

No.14 平成30年9月20日

静岡市清水区山原 871-2

Tel 054-363-2046

Fax 054-363-0522

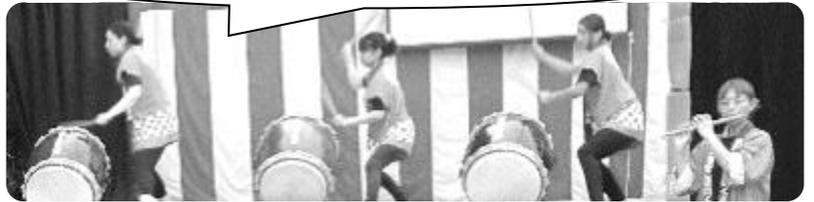
40周年 迎えた 風の子保育園

記念事業を8月11日に開催、卒園生・保護者等210名が参加

40周年記念

昼間の突然の雨も止んで、園庭に敷き詰められたシートに座って、プログラムを楽しむ卒園生、保護者たち。

オープニング～職員による太鼓演奏～



あすなろの家 納涼祭

地域の皆さんに ありがとうございますを伝えよう

今年も8月18日(土)にあすなろの家・納涼祭を開催しました。



あすなろの家の夏と言えば、「納涼祭」。今年のコネクトは『地域の皆さんにありがとうございますを伝えよう』です。

地域に感謝し、地域と一体となり、地域の方々に必要とされるあすなろの家になるために頑張っています。

40周年迎えた風の子保育園

風の子支えた法人も40周年



風の子落成式が昨日のここのように！ あれから40年、～道は続く

風の子保育園園長 大滝 裕子



気が付くと40年も勤めています。当初社会福祉法人、福祉事業に勤めたという自覚はゼロでした。一

保育園の栄養士として一人前になることを目指していました。

社会人1年目、右も左もわからない新米職員たちに「若い人はどう思う？」と、まず意見を求められました。職員会議は些細なことでもみんなで意見を出し合い決めるのでとにかく時間がかかりました。

40年前の落成式終了後、おりの部屋(旧園舎の中2階を当時そう呼んでいた)で若手職員、ベテラン職員、保護者、法人設立に携わった関係者すべてが「よくやった。みんな、本当によくがんばった。」と肩を抱き合い、涙していました。これまでの歩みと苦労が、涙になって声もでないほど感極まっていることが感じられました。

あの日のことを昨日のここのように覚えています。なにかわからないけれどスゴイ職場にいる自分。こういう人達がつくってきた風の子保育園。民主主義なんて言葉は右も左もわからない中、意見を求められるから、自分の意見をもつこと。そんな根っこが自分のなかに植え付けられたのかもしれませんが。

先日40周年の集い終了後、若手職員から感想をのべ、ベテラン職員は何人か涙していました。風の子保育園が愛されていること、だからあんなにたくさんの方が来てくれたこと。

あれから40年、道は続いていることを感じました。

その時々々の初心

～風の子は未来永遠に存続します～

風の子保育園 保育士 加藤 道子



「保育士」は私の幼い頃からの夢でした。就職が決まり喜びも束の間、0歳児や障がいのある子の保育、働く女性の実態など、知らないことばかりでした。また、全国の研修で学

んでいた先輩たちの保育観に圧倒され、自分の未熟さを痛感していました。

5年後1人で年長を担当した時に「子どもを導くこと」、10年後産休明けの赤ちゃんを担当した時に「子どもの命を守ること」、それが自分の責任であると感じました。

その後主任になり、子どもの保育から保護者の対応や保育士の指導に変わり、その人の本心を捉えることが難しく、時間をかけて丁寧に傾聴していくことが必要でした。

「自分から人とつながり、人をつなげよう」常に集团的に考えていくよう努めてきました。

風の子の40年、社会情勢の変化は激しく厳しいけれど、人の始まり、子どもの育ちは今も昔も変わりません。「ここに風の子あり」。未来永遠に存続します。

この間、法人は、あすなろの家を 設立し、ともの家を仲間にした！

私たちの法人は、風の子保育園を運営するために市民の力で設立されましたが、40年の間に、その力で特別養護老人ホーム「あすなろの家」を設立し、障がい者施設「ともの家」を仲間としました。

福祉に対する国の考えが大きく変わるなか、私たちは、憲法25条に定められた国民の生存権を保障する公的な責任を担う施設であろうと努力してきました。

ケアハウスで暮らす105歳の梅本さん

ケアハウスって知ってる？



現在、ケアハウスで最高齢のご入居者は105歳の梅本さんです。「長生きの秘訣はなんですか？」と聞くと「あんまりくよくよしないことだよ～言われことを上手に流すことだね」とおっしゃっています。

職員やヘルパーに「ありがとう」と

～感謝の気持ちを忘れない生き方～

最近では、足腰がだいぶ弱くなってしまい、3回の食事もお部屋に配膳しています。調子の良いときは、シルバーカーにお膳を乗せて食堂まで下膳に来てくれています。寝巻きでそのまま来る時もありますが、服に着替えてくる時もあるなど、とても気丈な方です。

1日のうち寝ていることが多くなりましたが、トイレや水分補給などは自分で行っています。毎日ヘルパーさんに生活の援助をしていただいています。着る服やお風呂に入るか入らないかなどのこだわりは健在です。

ヘルパーさんや私たちケアハウス職員にはいつも『ありがとう』の声を欠かさず掛けて下さり、感謝の気持ちを忘れない生き方は私たちのお手本です。

ケアハウスはこんなところ

自立した生活が可能の方が入居

ケアハウス（軽費老人ホーム）とは60歳以上の生活動作に介助が必要なく、かつ認知症等の問題行動もなく自立した生活が可能の方を入居の対象としている施設です。

全室、個室となっておりミニキッチン、トイレ、お風呂が完備されています。また、緊急時の為のコールの備付けもあります。

ケアハウスのサービスとして食事の提供、

大浴場の準備と片づけ、緊急時の対応や生活相談等があります。また、必要に応じ居宅介護サービスへの紹介、手続きの援助も行っています。

生活援助はヘルパーさんに

生活面の継続的なサポートや介助は基本的にケアハウス職員は行わず（緊急時は行います）、居室の掃除、洗濯、買い物等はご入居者に行っていただきます。今までできていたことができなくなってきた場合は、要介護認定の申請を行い、ヘルパーさんに生活援助をお願いしたり、生活にメリハリをつけるためにデイサービスを利用して頂いています。

一日は、朝食が済むと、病院へバスや徒歩で出かけられる方、デイサービスやリハビリに出かけられる方、買い物に出かけられる方、お仕事に行かれる方、施設行事に参加される方、山原堤までお散歩に出かけられる方、少しおやすみになる方といろいろです。

また夕方4時から、大浴場のお風呂があり、気の知れたお仲間との会話も弾み、夕食まであっという間です。



でんでん体操や短歌教室など行事活動も

最期まで元気でケアハウスに1日でも長く生活をしていく事を目標に、行事活動にも力を入れています。定例行事として（毎月）でんでん体操、いきいきクラブ、脳トレ、短歌教室、ちぎり絵教室、喫茶を行っています。年間行事としてお花見食事会やバス旅行、ビアガーデン、忘年会&クリスマス会、新年会、そして季節行事も多数行っています。

見学や相談も受け付けています。
お問合せはあすなろ（054-363-2046）まで



未だ「人」として生きられないの?…障害者差別解消法が施行されたのに 20年も檻に監禁された障がいのある男性

両親に閉じ込められた障がい者が見つかる

今年 2018 年 7 月、重い障がいのある男性（42 歳）が、何年にもわたって、立ち上がることもできない小さな檻に閉じ込められ、腰が曲がって立ち上がることもできないほど衰弱し、両目も失明寸前の状況で発見されました。

彼を閉じ込めたのは実の両親で、2 歳の頃より、普通の子とは違うことは認識していましたが、自分たちのテリトリーの中で、何とかしようと、周囲に助けを求めませんでした。

こんな悲しい出来事が、現代社会で何故？

成長過程で幾度となく訪れるはずのチャンス（育児検診や、小学校入学診断など）をどうやって逃れたのか、また、ご近所付き合いの中で、少しは気にしてくれた周囲の方々がいなかったのか、ごく普通に暮らしている私には、納得がいけない事ばかりです。

幼少時の男性の障がいの程度はわかりませんが、親の愛情を受けず、外部との接触もない中で、ストレスに苛まれ、徐々に強度の行動障害（自傷や暴力）を発症したようです。

どんどん壊れていく心と身体、現代の出来事とは到底思えない、悲しい出来事です。

障がい者の人権が全く無視された過去も

過去を振り返ると、障がい者の私宅監置を認める法律や、ハンセン病患者の隔離政策、母親が、障がいのある子どもの将来を悲観して我が子を殺した母親に同情の目が向けられたなど、障がい者の人権を無視した政策や風潮がありました。

国連『障害者権利条約』

「わたしたち抜きに、わたしたちのことを決めないで」

介護保険が施行された頃からでしょうか。それを追っかけるような形で、障がい者の法律や、制度が整ってきました。

国連で採択された障害者権利条約のスローガン「わたしたち抜きに、わたしたちのことを決めないで」は、物言わぬ、物言えぬ弱者の叫びとも言えました。

障害者差別解消法が施行、でも…

しかし、法律が整ったことだけでは解決できない問題が、社会の中で渦巻いていると思っています。

差別解消法が施行されたことで、公共の施設は合理的配慮が義務づけられました。しかし、この配慮を受けることを差別と捉え、「障がい者だからってずるい！」と、非難を浴びる出来事がありました。

未だ大勢の「弱者」が、遠慮し、がまん…？

平等・人権・権利・尊厳が尊重されてきた一方で、弱者は「怠け者」であり「負け組」と言う考え方は、昔より深い所で、現代社会に浸透し、隠すことで、社会に迷惑を掛けずに、何とか溶け込んでいる人たちが大勢いるのではないかと、心配になります。

息子を軟禁していた両親の心情は理解できませんが、やむを得ない理由など、どこにもありません。

さいごに…

仲間たちは「生きやすい」と感じてくれるかな？

「ともの家」の仲間たちは、少しは生きやすいと感じてくれているでしょうか。社会のモラルを守りながら、手に入れた普通の暮らしを持続することが目下の目標です。（ともの家・滝戸恵美）

